

日本留学海外拠点連携推進事業 中間評価所見

採択機関（担当地域）名：日本学生支援機構（日本本部）

○ 実施委員会による評価を踏まえた所見

1. 全体の進捗状況

概ね計画通りに進められている。日本本部として、各採択大学からの情報を踏まえ、全体としてどのように分析し、今後の方針にどう役立て、フィードバックしていくのか、という点が、本事業における留学生受入れ推進方策となっていくと思われるので、日本本部を設置したことによって、海外に拠点を置く地域からの留学生数の増加にどのようにして資することができるのか、詳細に分析を行い、より主体的な日本本部の存在が期待される。

2. 成果指標（※）の進捗状況

情報収集活動に一定の進捗は見られるので、今後、収集された情報をどのように理解し、どのようにすればより価値のある情報になるかといったような分析をした上で、発信していくことが求められる。国内関係機関・団体との関係構築に努めていることは認められるが、今後は、既存のネットワークに接続するだけに留まらず、より主体的な活動を行っていくことや、構築されたネットワーク等を今後どのような価値に結び付けていくのかを明らかにしていくことが求められる。

3. 実施体制の構築・活動状況

人員配置は概ね計画通りであり、データの提供等、関係機関との連携も進められているが、取組が受動的であり、既存の調査データの提供が主となっている。海外拠点における活動との役割分担や共同で行うべき作業について整理し、日本本部にコーディネーターを置くことの意義が十分に発揮されるような体制を整える必要がある。

4. 今後の実施方針についての検討状況

新型コロナウイルス感染症拡大による事業活動への影響を最小限にする工夫が認められる。今後も、物理的な距離という障壁を乗り越えることができ、また、時間短縮などのメリットが期待されるオンライン活用を促進する好機と捉え、その利点を最大化するとよい。採択機関の取組事例のみならず、国内企業や教育現場等で行われている活用可能な取組事例の共有等もできると日本本部としての価値向上に繋がるものと考えられる。

委託期間終了後の継続についても組織としては十分担保されていると思われるが、海外拠点を置く大学等との関係をどのように発展させていくか等、具体的な仕組みづくりや体制構築が必要である。

※ 実施計画書における成果指標①「留学に関する情報収集・発信（既存機能の更なる強化）」、成果指標②「優秀な留学生獲得に向けたリクルーティング活動促進」、成果指標③「帰国留学生とのネットワーク構築及び広報・リクルーティング活動における協力深化」